

日本ブラジル交流年(日本人ブラジル移住百周年)にあたり、大山耕二市長(協会名誉会長)を団長とする慶祝訪問団30名が、レジストロ市などを訪問し、交流を深めました。1980年の姉妹都市提携以降、両市は相互訪問を重ね、中津川市からは6回目となります。今回は外務省の日本ブラジル交流年記念事業としての訪問となりました。

5月22日(木)(現地時間)、本協会員をはじめ多くの市民が参加した慶祝訪問団一行は、レジストロ市役所にクロヴィス・ヴィエイラ・メンデス市長を表敬訪問し、2005年秋にメンデス市長が中津川市を訪問されて以来約3年ぶりの再会を固い握手で喜び合いました。

同夜、レジストロ市主催の歓迎晩餐会が催され、市民250人の歓迎を受けました。これまでに中津川市を訪れた方も多く、再会の喜びとともに交流を深めました。

式典では、両市長、両姉妹都市協会長のあいさつの後、大山市長、三尾義彦協会副会長、丸山輝城協会理事にレジストロ市名誉市民章が授与されました。また、レジストロ日伯文化協会和太鼓部の子どもたちにより、今回の訪問記念として贈呈した和太鼓の力強い演奏が披露されました。

和太鼓を指導する日系二世の女性が「私たちはブラジルでは『日系人』と呼ばれ、日本に行けば『ブラジル人』と呼ばれます。私たちが何者なのか、それを探り求めていくためにも、ブラジルで日本文化の継承に力を注いでいきたいし、日本との文化交流もぜひ続けていきたい」と語っていたのが強く心に残りました。

鈴木会長に「グラン・クルス勲章」

歓迎晩餐会の席上、鈴木嘉進姉妹都市友好推進協会会長にブラジル政府公認の民間人最高勲章「グラン・クルス勲章」(ブラジル初代皇帝ドン・ペドロ1世十字勲章)が授与され、メンデス市長から伝達されました。長年にわたる積極的な交流促進と両市・両国の文化交流への多大な功績が評価されたものです。

新生児用医療器具を寄付

23日(金)、中津川ロータリークラブ(丸山輝城会長)が創立50周年事業として、他クラブの協賛を得て、サンジョアン病院へ新生児用医療器具一式(250万円相当)を寄付するために同病院を訪問し、贈呈式を行いました。

岐阜県人会創立70周年記念式典

25日(日)には、サンパウロ市で、ブラジル岐阜県人会創立70周年記念式典が開催されました。岐阜県から古田肇岐阜県知事をはじめ約100人が出席し、大山市長も県内の姉妹都市提携市の市長を代表して祝辞を述べました。



レジストロ市長を表敬訪問



歓迎晩餐会の様子



力強い和太鼓の演奏



新生児用医療器具を寄付